

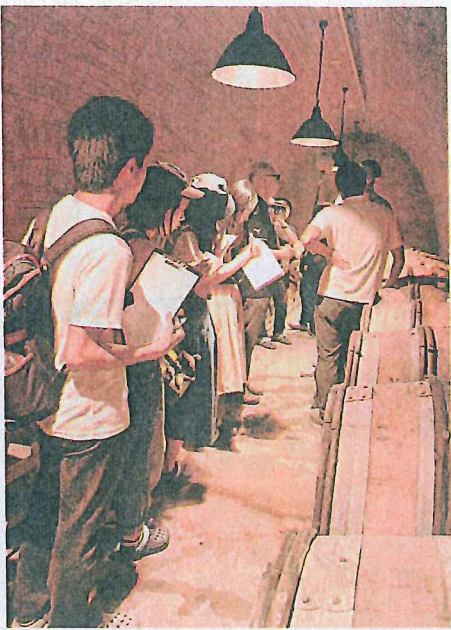
6次産業化 仁木に学ぶ 商大生

【仁木】小樽商大グローバル戦略推進センターは7日、地域資源を発掘する学生のフィールドワークを町内で行った。商学部で国際マーケティングを専攻する

学生8人が町内のワイナリー「NIKKI Hills（ニキ・ヒルズ）ヴィレッジ」などを見学し、農業の6次産業化を学んだ。フィールドワークは町の地方創生事業の一環とし

て、同センターがJTB北海道（札幌）などと連携して実施。来年2月までに訪日外国人客らに向けた地域産品の売り込み方を町に提案する。

学生は町内のワイナリーや農村公園、農家レストランなどを見学。ニキ・ヒルズでは醸造責任者の鷹直之さん(33)が、醸造所やワイン蔵などワイナリー内を案内した。



「NIKKI Hills」でワイン蔵を見学する小樽商大生たち

鷹さんは6次産業化の狙いを「観光客誘致、地元雇用創出に加え、生産や流通を担うことで高齢化が進む町内の農業者を支援したい」と説明。商学部3年の莊司詩南さんは「6次産業化を実践する生産者の生の声を聞け参考になりました」と話していた。

（竹内博）